

氏名	米田 修平
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲第 1259 号
学位授与の日付	平成 26 年 3 月 28 日
学位授与の要件	学位規則第 3 条第 1 項第 3 号に該当
学位申請論文タイトル及び掲載誌	
	急性冠症候群を疑う胸痛で経過観察を必要とする患者における血流依存性血管拡張測定の意義
Thesis	
学位審査委員（主査）教授	岡崎 康司
	（副査）教授 西岡 利彦、教授 牧田 茂、講師 飯田慎一郎

## 論文内容の要旨

緒言：血流依存性血管拡張（FMD: Flow-mediated vasodilation）は、超音波診断装置を用いて血管内皮機能を非侵襲的に計測する手法として普及している。特に最近、我が国において開発された FMD 測定に特化した超音波装置 UNEXEF18G により、半自動的に測定することが可能となり、再現性が改善した。FMD と冠危険因子との関連性について様々な研究が行われている。しかし、急性冠症候群（ACS: Acute coronary syndrome）と FMD との関連性は十分に研究されていない。そこで我々は、胸痛で来院し ACS が疑われた患者のうち、緊急の冠動脈造影あるいは治療を要する症例を除外した患者の FMD を測定し、ACS における FMD 測定の意義を前向きに検討した。

方法：対象は、胸痛を主訴に来院し、ACS が疑われ、FMD 測定が可能であった 41 例（男性 26 例、女性 15 例、平均年齢  $65 \pm 11$  歳）である。超音波診断装置は UNEXEF18G（41 例）を使用し、来院後 48 時間以内に FMD を測定した。ACS の最終診断は主に冠動脈造影によって行われた。

結果：FMD は ACS 群（ $n=10$ ）と非 ACS 群（ $n=31$ ）でともに低値を示し、ACS 群は非 ACS 群と比較し有意に低値を示した（ $2.0 \pm 1.0\%$  vs.  $3.6 \pm 2.7\%$ 、 $P=0.01$ ）。ACS の診断特性の評価において FMD のカットオフポイントを 4.1% とし、4.1% 未満を陽性とした場合に ACS の陰性予測値が高値を示した（感度 100%、特異度 39%、陰性予測値 100%、陽性予測値 34%； $P=0.02$ ）。

結論：ACS 群では非 ACS 群に比して FMD が低値を示し血管内皮機能の障害が疑われた。FMD 4.1% 以上では胸痛患者において ACS の可能性を否定できる。